

新緑の季節から潤いの梅雨時へと季節は移ろいつつあります。愛知県技術士会においても4月12日に総会を滞りなく終え、幹事会も新しい体制のもと、積極的な活動展開を推進しようとしています。新代表幹事の素、一致団結、価値ある個性的な事業展開を会員総意で展開していきましょう。

新代表幹事のご挨拶

会員相互の情報交換と協働で 魅力ある愛知県技術士会の展開をめざす



代表幹事 柴 田 素 伸

中部支部の事務局長と会計の役がようやく終わったと思ったら、愛知県技術士会の代表幹事を引き受けることになった。微力であるが引き受けた以上、全力投球でご奉仕したいと心に誓っている。私の方針というよりも気持ちを知っていただきたい。これまで築き上げてこられた良き伝統を守り、その上で更に2つのことを進めたい。

一つはより魅力ある愛知県技術士会にしたいこと。具体的には、講演会や見学会、研究発表会、ふれあい技術士プラザなどの行事が楽しくかつ有益で、次回も参加したくなるようなものであり続けたい。少なくともその気持ちをベースに企画・立案に工夫を凝らしていきたい。別の言葉で言えば、顧客満足（CS）の追求ということになる。幹事の方は分担し

て行事を企画し、会員の方々にご提供しているが、これが会員の皆様の要求や考え方にマッチングしているか疑問がある。したがって、今年は参加される皆様にはアンケートをお願いすることになる。

他はホームページの充実である。常に新鮮な情報を提供する場とし、また会員の皆様からの声を受信する場にもしたい。CSの追求にはどうしても双方向の情報交換が必要である。

魅力ある愛知県技術士会は会員の皆様と幹事の共同作業で初めて出来上がるものであり、活発な情報交換がその成否の鍵を握っているように思われる。

皆様のご協力を心からお願いし、就任のご挨拶に代えたい。

「広場・湖海の士」 No.18

忘れえない思い出の一片

杉山博夫（衛生工学・環境）

今、報道で「イラク戦後」という言葉が頻発していますが、「戦後」という言葉は私に、第二次世界大戦後しばらくの激動の日々を思い起こさせます。そのなかに次のような一片の思い出があります。

昭和24年（1949）春、私は名古屋市衛生研究所に就職して3年目でした。その年に、厚生省・国立公衆衛生院で、地方衛生研究所の環境衛生業務に従事する若い研究員を集めた長期（8ヶ月）の研修を受けていました。同期の受講生は薬学系統の約40名位でした。「公衆衛生院」というのは厚生省の研修訓練機関を兼ねた研究機関で、国電（現・JR）目黒駅からしばらく上がった、白金台町の東大伝染病研究所（現・医科学研究所）の隣の6階建ての大きな建物でした。この頃、多くの日本人の心情は、つい数年前まで「鬼畜米英」と叫んでいたのに、敗戦で“くっしゃ”で複雑でした。その複雑な気持ちを砕くように、皮肉にもここに登場する国立公衆衛生院の建物は、第二次世界大戦前に、アメリカのロックフェラー財団から日本の公衆衛生向上を願って寄贈されたものでした。時はまだ米軍の占領下、建物の入り口から近いところには米軍衛生部士官の駐在室があり、ときどき英語で占領軍の立場から公衆衛生確立指導の講義がありました。占領軍士官として彼らもなかなか張り切っているようでした。この戦後初期には、水、大気、排気ガス、廃棄

物、建築衛生、食品衛生等、いろいろのことを込みで教育されました。地方衛生研究所の化学系の業務に関することを山のように一気に教え込まれ、レポートなどの提出で忙しかったような記憶があります。寮は少し離れ、京浜急行の立会川駅の側の海岸にある旧日本軍の仮設兵舎でした。さらに南に行くと羽田空港です。

水に関することでは、地下水、水道水などのみでなく、都市下水、商業排水についての研修がありました。下水・排水の研修では柴田三郎先生の講義や演習を受け、深い感銘を受けました。ここで演習というのは、BOD実験でも単なる水質試験のみでなく、そのデータを下水・排水の処理プラントの管理や、池、河川など環境水の水質管理にも理論式を立てて利用する話で、当時の新人たちには新鮮でありました。柴田先生は大変、熱心に講義され、「面白いから、もっと聞きたい」と受講生側で申し出ると、先生は大変喜ばれて、放課後に数時間にわたって、BODの環境処理、環境管理への適用について噛んで含めるように先生の最新のご研究をふくめてお話しさいました。私たちは「これは現場でつかえるぞ」と思ったものです。

柴田先生は、東大工学部応用科学科卒で、現在も新幹線から瞥見される芝浦下水処理場の主のような方でありました。第二次世界大戦前にすでに「工場廃水」326ページ（昭電堂）の好著がありましたが、1949年ごろにも次の米国書籍の訳書を上梓されました。

INDUSTRIAL WASTE TREATMENT
PRACTISE (1942) [Eldrige]

この柴田先生の訳書の本の巻頭にある「翻

訳者の言葉」から1、2、抜き書きしておきます。私には忘れ得ない言葉です。

→「本書の特徴は各排水を取り扱う場合に、その排水によって来る工業工程を詳細に記した点にあるであろう。したがって本書を手に入れば工場廃水の処理に関する知識を得るばかりか、工業化学の知識をも得るということになる、もう少し古典になったいやな言葉「一石二鳥」なのである。(この原著の記述が＝杉山・注) 少しくくどすぎるように思うのはわれわれ日本人のむしろ欠点で、くどいくらいがよいのである。」

→「以上のごとく欠点だらけの翻訳なので、大方の寛恕を願う次第である。原著者には寛恕を願わない。なぜかという、忠実に訳して訳者の独断をいれなかったから、むしろほめられてよいと心得ておる。その上、Eldrige自身、出版を急いだらしく、しばしばひどい誤りを訂正してやったという親切さもあったのだから、著者から感謝を期待している。この著者の誤記は大を小とし、小を大とし、計算式の順序を違えたりしたのが主であって、ユーモラスなものなので、訳者は著者に対していやましに敬愛の念を抱いた。およそ隙のなからんと構える人ほど親しめないものはなく、どこか抜けている人ほど立派な事が多いと信ずるからだ。」

ここに紹介した本は、戦後GHQからまず翻訳100冊許可の米国書の中の1冊とされています。原著者は米国では著名な排水の研究者らしい。この訳書の全体が読んでいただけないのが残念ですが、この小文で柴田先生の意気盛んな雰囲気がいくらかでもお伝えできましたら幸いです。

日本は今もアメリカに従う国に近いが、1948年は完全占領下でした。私は、1年ぐらい保健所の食品衛生監視員をしていました。レストランや食品工場や食品販売所での監視票は英文の下に和文を記載したものが多く、その他の書類にも英文を使ったように記憶しています。

私のこの雑文意は、意味の通じにくい点もあるかもしれませんが、占領下の制約の中で、なお、意気盛んな技術者の一人として柴田三郎先生を忘れてはいけないと懐かしく思うものです。

「中 国 訪 問 紀」 №3

西安食物紀行

西脇正倫（建設部門）

西安は中国東北地方に位置する古都であり、古都であるが故の伝統的な宮廷料理も多く残されているそうです。しかしながら私たち旅行者が口にできるものの多くは、いわゆるツアーリストクラスのレストランのそれであって、一口でいえば日本における中の下の中華レストランの円卓料理です。何種類かの前菜と揚げ物、炒め物、煮物にスープ、甘いお菓子といったコース料理が昼も夜も続くわけで、まずくはないが感動的な美味というわけでもなく、旅の終わりには食傷します。

しかしながら今回の中国訪問は、平成13年の訪問のときにもお世話になった西安科技大学の先生方のお招きで、大学が経営するホテルでの晚餐に預かるチャンスを得ました。

形式は円卓を囲み、回転卓に次々と供せら



れる料理を取り分けて頂くというおなじみのものですが、食材はさすがにみごとなもので、この日のメインはスッポン。中国でも体を温め、肌を美しくする食材として珍重されています。このスッポン君、最初は生きたままお目見えし、ひと暴れして元気なところを披露した上で、今度は土鍋に入って登場しました。土鍋の中で解体されて食卓を囲む面々にスープとともに供されるのですが、さりとした中にこくがあり確かに体が温まります。一匹150元（約15円／元）だそうで、庶民の口には入りにくいのは日本と同じようです。

さて、西安は中国内陸部にあって降雨が少ないため、米作よりも麦作に適し、シルクロードの起終点のひとつであるため、西方、イスラム文化の影響を受けた食文化のあるところ。今回、名物料理として「パオモオ（すみかせん、該当する漢字ができません）」というものを試す機会を得ました。この料理は、発酵させない円形の厚手のパンとスープからなるもので、運ばれてきたこの円形のパンをなるべく細かくちぎってどんぶりに入れると、そこに豚腸のスープを注いでくれます。漢方薬で下処理がなされているというそのスープ

はまったく臭みのない白湯スープです。



煮られた豚腸も柔らかくて味わいがあり、特にスープはスッポンのそれにも遜色のないコクがあり美味。それでいてあっけないほどあっさりしたスープには、舌のしびれるラー油（花椒が香りと痺れのポイント）を入れ、生のんにくをかじりながらいただきます。ピリッとした両者がアクセントとなって、味わいを深めているのです。もとは回教徒の料理だそうですが、回教徒は豚は食べないはずですから、長い歴史の中で豚肉好きの漢民族がアレンジしていったものと思われます。もっとも、現在も西安は回教徒の多い地区であり、町には羊肉好きの回教徒らしく「羊肉パオモオ」の看板がよく出ています。この他にも、町の屋台をのぞいてみると、小麦粉を薄くのばして葱やひき肉を散らし、くるくると巻いて棒状にしたものをさらに渦巻状に巻いて円盤としたものを油でいため焼きした「シャオピン」なるものをはじめ、小麦粉を用いた料理があふれかえっています。中国の人々は屋台をよく利用しており、私が西安技科大学前の屋台街でシャオピンとスープの朝食を摂っていた時も、付属小学校に子供を送ってきた通勤途中のお母さんが子供といっしょに学生

に混じって朝食を摂っていました。



これらの屋台の料理の値段は大体、一品1、2元です。私が取ったシャオピンとスープもそれぞれ1元で合わせて2元、邦貨にして30円ほどです。狐色に焼きあがったシャオピンは、外側はパリッパリで、中はもっちり、かぶりつくと油がジュッと口中ににじんで葱の香りが鼻腔を抜けていきます。トロリと葛をひいたスープにはやはり花椒で舌がしびれるラー油を入れていただきますが、体も温まるし、麺状の具は大豆製品であるとかで、栄養的にも結構なものです。敦煌の屋台（次回、ご報告？）でも思ったのですが、こんなにうまいものが安価に手に入るのですから、ツーリストクラスのホテルの食事にばか高いお金を出すのがなんともむなしく思われ、今度、訪中するときには全食、屋台にしてやろうと思いましたし、同行のメンバーにも進めたものです。もっとも、同行の中国人G君が「私責任ありますから、おなかこわしますから、だめ、ですから」といって決して連れて行こうとはしなかったのですから、中にはお口、いやお腹に合わない方もお見えになるかもしれません。その場合には当方、責任は負いようがありませんので、この雑文をお読みにな

って試してみようという方は、各自の責任と判断でお願いいたします。しかし、食べるか否かは別として、他国を訪れた時には、市場や庶民的な飲食店を覗いてみると、その国の文化や風俗、生活の一部を垣間見ることができるという意味では興味深く、皆さんにも市場、飲食街の散策をお勧めしたいと思います。（治安についてはお気をつけ下さい。）

さて、2元あれば充実した一食をいただくことができる西安、この古都を後にして敦煌に向かった時のことです。空港への途中で政府高官の通過を待つため、路側でしばし待機しなければならなくなりました。ふと見ると、大勢の人ばかり。政府高官の見送りが、とよく見てみると、皆さん中年の男性、それも擦り切れた衣服に埃っぽい体を包んだあまり豊かとはいえない人々ばかりです（市内の人々は総じて豊かさを感じる容姿でした）。ガイドに問えば、仕事を求めてたむろしている農民であり、運がよければその日の仕事にありつける人もいるとのこと。昔の名古屋市であれば亀島の辺りで見たあの風景だったのです。

「で、いくらもらえるの？」とたずねると、1日5元が相場とか。今朝、学生や子供を送ってきたお母さんに混じってしたためた屋台の朝食が2元、ということはこの人たちは仕事にありつけても、汁つきの食事を1日3食はとれないことになる・・・。

先回、今回と現代の中国を垣間見て、そのバイタリティに圧倒されたものですが、社会主義の国にあっても、やはり様々な社会格差が生み出されてしまうものなのかと、やがて空港へと動き出した自動車の中で、少々、考えさせられたのでした。

・お知らせコーナー

●愛知県技術士会第 14 回研究発表会の開催

日時：6月 21 日（土）13:30～16:30（受付開始 13:00）

場所：名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール）

4 階 第 2 会議室

発表テーマと講演者：

講演 1 （13：35～14：15）

「ベリリウム銅について」

柴田素伸氏（柴田技術士事務所）

講演 2 （14：15～14：55）

「浄水ケーキのリサイクルー植物育成培地への利用」

小堀英和氏（小堀技術士事務所）

講演 3 （15：10～15：50）

「航空機の主翼設計について」

中尾捷氏（中菱エンジニアリング株式会社）

講演 4 （15：50～16：30）

「急速ろ過のメカニズムとその応用について」

山下和雄氏（名古屋市上下水道局）

参加費：1,000 円（非会員 2,000 円）

申込み：E-mail にて、6月 13 日（金）までに（社）日本技術士会中部支部内 愛知県技術士会事務局までお願いします。

g-chubu@asahi-net.email.ne.jp

（担当幹事：森下正三、跡部昌彦）

※本研究発表会は CPD の対象になります。なお、愛知県技術士会では、研究発表会に発表される会員を募集（締め切りなし）しております。発表を希望される方は、上記アドレスまでご連絡ください。

●愛知県技術士会平成 15 年度第二回例会「講演会」のご案内

日時：平成 15 年 8 月 23 日（土）13:00～18:30

場所：名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール）
4 階第二会議室

説明会 （13：30～14：25）

「特許法等の一部改正の概要について」

中部経済産業局産業技術課特許室長甲斐憲一氏

講演会 （4：35～16：30）

仮題「中小企業の現状について」

中部大学経営学部講師寺沢朝子氏

懇親会（17：00～18：30）

於：レストラン吹き上げ

参加費（懇親会費含む）：4,000 円（非会員 5,000 円）

講演会のみは会員 1,000 円（非会員 2,000 円）

申込み：本技術士会中部支部内 愛知県技術士会事務局に、8 月 15 日までをお願いします。

g-chubu@asahi-net.email.ne.jp

〒450-0002 名古屋市中村区名駅 5 - 4 - 1 4
花車ビル北館 6 F

日本技術士会中部支部内愛知県技術士会松田事務局次長宛

担当幹事

加藤允可（mkato@togoh.co.jp）

太田立男（r-othta@bg7.so-net.ne.jp）

足立重光（Shigemitsu.Adachi@trw.com）

※本研究発表会は CPD の対象になります。

●愛知県技術士会平成 15 年度会費納入のお願い

すでに会員の皆様のお手元に会費納入のお願いと振込用紙が届いていることと存じます。恐縮ですがご高配お願い申し上げます。

●会員異動情報

〔入会者（敬称略）〕

谷口博幸（建設部門、環境部門、総合技術監理部門）

足立建夫（建設部門／総合技術監理部門）

川崎芳樹（機械部門）

水野朝夫（水道／衛生工学／総合技術管理部門）

〔脱会者（敬称略）〕

龍田啓一（電気・電子部門）

●愛知県技術士会平成 15 年度会計計画書

4 月 12 日に開催された愛知県技術士会総会において指摘のあった平成 15 年度会計計画について次ページの表のように修正いたし

ました。

(社) 日本技術士会 中部支部 愛知県技術士会発行
愛 知 県 技 術 士 会 会 報

NGAH №53
2003. 6. 1

発行人 柴 田 素 伸
編集人 間 瀬 雅 彦
西 脇 正 倫

科 目	14 年度予算	15 年度予算	増 減	備 考
I 収入の部				
1 年会費	700,000	700,000	0	会員 140 人
2 補助金収入	115,000	115,000	0	前年予算並み
講演会等補助金	<115,000>	<115,000>	<0>	
3 自主事業収入	0	0	0	
業務紹介料	<0>	<0>	<0>	
研究発表会	<0>	<0>	<0>	未確定
4 受託事業収入	0	0	0	
5 各種資料頒布収入	0	0	0	
6 雑収入	100	100	0	
受け取り利息	<100>	<100>	<0>	
雑収入	<0>	<0>	<0>	
7 特定預金取崩収入	0	0	0	
当期収入合計 (A)	815,100	815,100	0	
前期繰越収支差額	637,669	465,293	△172,376	
収入合計 (B)	1,452,769	1,280,393	△172,376	
科 目				
II 支出の部				
1 事業費	570,000	444,000	△126,000	業務実態考慮 メール活用 追加フォロー 新入会員向け
会報作成費	<40,000>	<60,000>	<20,000>	
会報郵送費	<60,000>	<40,000>	<△20,000>	
名簿作成費	<125,000>	<10,000>	<△115,000>	
名簿郵送費	<15,000>	<4,000>	<△11,000>	
講演会費	<30,000>	<30,000>	<0>	
見学会費	<30,000>	<30,000>	<0>	
ふれあい技術士会	<0>	<100,000>	<0>	
WG運営費	<150,000>	<150,000>	<0>	
広告宣伝費	<20,000>	<20,000>	<0>	
全国大会支援費	<100,000>	<0>	<△100,000>	
2 管理費	415,000	415,000	<0>	
事務委託費	<130,000>	<130,000>	<0>	
会議費	<120,000>	<120,000>	<0>	
旅費交通費	<80,000>	<80,000>	<0>	
通信運搬費	<20,000>	<20,000>	<0>	
什器備品費	<5,000>	<5,000>	<0>	
消耗品費	<5,000>	<5,000>	<0>	
印刷製本費	<30,000>	<30,000>	<0>	
雑費(振込手数料)	<25,000>	<25,000>	<0>	
3 特別預金支出	0	0	0	
4 特別会計繰入金支出	0	0	0	
5 予備費	0	0	0	
当期支出 (C)	985,000	859,000	△126,000	
当期収支差額(A)-(C)	<△169,900>	<43,900>	<226,000>	
次期繰越金差額(B)-(C)	467,769	421,393	△46,376	

[愛知県技術士会会報の情報連絡先]

代表幹事 柴田素伸 〒492-8485 稲沢市中之庄町行燈18-86
TEL・FAX 0587-32-4758 Email: shibata-m@mvc.biglobe.ne.jp

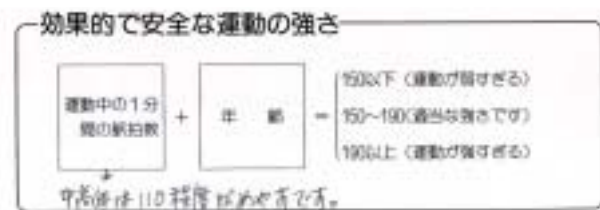
・ウォーキングのススメ

そろそろ梅雨時、なかなか外を歩くことは難しい季節ではあります。しかしだからこそ、梅雨の合間の晴れの日が貴重です。実際、梅雨時の晴れの日、雨に洗われた空気に、萌えた緑が際立ち、生気にあふれた風景を味わうことができます。そんな日は子供でなくても屋外に飛び出したくなるもの。そこで梅雨の合間の散策をより楽しく健康的なものにするためのコツをお伝えします。

みなさん、ネクタイをはずし、運動靴に履き替えてちょいとヒト歩きしてみませんか？

のんびりゆっくり歩く散歩も、心身のリラックスにとって、捨てがたいものですが、健康増進を考えると、もう少し元気に歩くウォーキングがよいようです。ウォーキングはジョギングよりも関節や心臓にかかる負担が小さく、ご高齢の方でも取り組みやすい軽運動です。少し汗ばむ程度の早足で30分から1時間未満程度を歩くのがポイント。気をつける必要があるのは脈拍です。下の表に示す計算式で簡単に計算できますが、中高年者はおおむね1分間に110程度の脈拍数となるように歩き方を調整します。

右上の絵図のように、元気よく歩けば、心も若やぐことうけあい。できればいつもより少しカラフルな服装で、夫婦と一緒に歩かれてはいかがでしょう。



●歩き方のポイント

①あごを引く。うつむかず、数10メートル先を見て。

②背筋を伸ばす。お腹が出っ張らないように。

③腕はリラックスさせ、軽くひじを曲げ、足の動きに合わせて前後に大きくふる。

④足を蹴り上げるとき、膝の後ろを十分に伸ばすように。

⑤歩幅はできるだけ大きく、身長のおよそ2分の1よりやや小さめを目安に。

⑥足の運び方



上図は名古屋市西区健康の道報告書から抜粋しました。

・編集後記

4月の総会で新年度事業が確認され、早一月半が経ちます。その間、中部支部総会も実施され、いよいよ平成15年度がスタートしました。今年も昨年同様、いろいろな企画が用意されております。この会報ではそれらの情報を的確にお伝えすると同時に、会員相互の意見交換の場となるよう、読みやすく、親しみ易い紙面を心がけ編集して行きたいと思っております。今年度もよろしく願います。事務局一同より。



[愛知県技術士会会報の情報連絡先]

代表幹事 柴田素伸 〒492-8485 稲沢市中之庄町行燈18-86
TEL・FAX 0587-32-4758 E-mail: shibata-m@mvc.biglobe.ne.jp